

# 2017年度 臥竜塾年間講座0回目 今年度のテーマ「文字・数・科学」

第8号 2017年4月24日発行

## ミマモルジュ挨拶

ホテルに宿泊客の様々な相談や  
ご要望に応えるコンシェルジュがいる  
ように、保育においても様々な  
ご要望や悩みがあると思います。

「見守る」+「コンシェルジュ」=  
ミマモルジュとして、保育に関する  
ご要望にお応えしていけるよう  
活動していきます。

株式会社ガガヤ 奥山卓矢

## 2017年臥竜塾年間講座開講に当たって

今年度も臥竜塾年間講座が4月25日から開講します。  
臥竜塾年間講座とは、新宿せいが子ども園の職員が毎回テーマを設け、  
実施する講座のことです。昨年は関東の保育園を中心に約20名の先生  
方が参加し、遠くは熊本県からの参加もありました。

昨年はワークショップを中心に、保育シーンで活用できる教材作りを  
行いました。例えば、落雁作りや黒板作り、燻製箱作りなど内容も  
多岐に渡り、各園の環境で取り組みやすい内容に工夫されていました。

毎回、講座の冒頭に設けられる実践報告では講座で学んだことを保育の  
中でどう取り入れたかを報告し合い、その時間もまた大切な学びの場と  
なっていました。そして、ワークショップということで、回を重ねる  
ごとに仲も深まり、保育の情報交換も自然と増していきました。

2015年からはじまった臥竜塾年間講座も3年目を迎え、今年は、  
「文字・数・科学」をテーマに計10回の実施が予定されています。

2017年度の開講に当たってまずは、昨年度の講座の内容を振り、  
今年度の講座に繋がるよう準備号として0回目を報告させていただきます。

今後の講座内容については随時報告させていただきます。

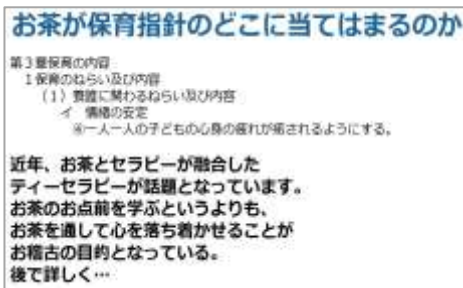


2016年度 臥竜塾年間講座開講

## 幼児教育と初等教育の違い



2016年4月「お茶・落雁づくり」



2016年4月「お茶・落雁づくり」  
お茶と保育指針の関連性について講義



2016年5月「黒板づくり」

### 幼児教育

#### ⇒経験カリキュラム

##### 経験を通じたカリキュラム

保育園・幼稚園では、経験のできる場を用意することが必要。

保育所保育指針・幼稚園教育要領

「～を味わう」「豊かにする」

「楽しむ」

### 初等教育

#### ⇒教科カリキュラム

教科ごとにカリキュラムが設定してある。教科ごとにどんなことを身につけるかが書かれている。

小学校学習指導要領

「～ができるようにする」

(図1: 新宿せいが子ども園 西村先生PPTを再構成)

昨年の講座では、保育園・幼稚園と小学校での学びの違いを理解する所から始まりました。ここを押さえておくことで、乳幼児期に何をすることが大切かが見えてくると言うことで、図1が登場しました。

幼児教育では「～を味わう、楽しむ」。小学校では「～ができるようにする」というように語尾が違います。どうやらこのあたりを勘違いしてしまいがちで、どうしても園児にも「～できるようになる」ことを求めてしまうようです。

では、小学校へ入学する前にはこういったことが必要かと言うと、様々な経験をできる環境を用意する必要があると言われています。それは、物だけではなく人、(親・保護者、子どもたち同士)の経験が必要で、その経験が小学校以降の学びの基礎と言われています。

保育園、幼稚園で教え込んでしまうと、「これ知っている！」とそこで終わってしまいます。いろいろな興味、関心を持つことで、次を知りたくなり、幼児期はさせることよりも味わったり、楽しんだりする体験が必要なようです。



2016年7月 食育講座



2016年9月 課外講座  
地図を頼りにゴールを目指しました！



2016年 12月紙漉き体験  
紅葉を挟んで華やかに仕上がりました

## 小学校の各学年の授業時数

各教科の授業時数

区 分	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年	
各教科の授業時数	国語	306	315	245	245	175	175
	社会			70	90	100	105
	算数	136	175	175	175	175	175
	理科			90	105	105	105
	生活	102	105				
	音楽	68	70	60	60	50	50
	図画工作	68	70	60	60	50	50
	家庭					60	55
	体育	102	105	105	105	90	90
道徳の授業時数	34	35	35	35	35	35	
外国語活動の授業時数					35	35	
総合的な学習の時間の授業時数			70	70	70	70	
特別活動の授業時数	34	35	35	35	35	35	
総授業時数	850	910	945	980	980	980	

図2 小学校指導要領 平成20年3月 文部科学省 別表第一（第五十一条関係）を編集：奥山

図2の赤枠内は小学1年生で習う授業時数に焦点を当てたものです。赤枠内を見ると1年生では国語に重きを置いているのが分かります。そして、社会の授業は3年生からはじまります。これは8歳ころ脳の臨界期を迎えるからだと言われています。

藤森先生は臨界期について「臨界期の前後では何がどう違うのか？8歳以前の子どもは実際に見たり聴いたり触ったり、直接体験したことでないと身に付きません。一方、臨界期以降は、実際に体験しなくても、本などで見聞きしただけのバーチャルな体験でも身につけることができます。小学校の低学年の教科書には子どもたちが実際に体験できることが掲載されてますが、高学年になるにしたがって地理や歴史など、バーチャルでしか体験できない事柄も取り上げられていきます。」と仰います。『見守る保育②』012歳の「保育」p10より引用 藤森平司著

改めて図2を見ると、入学から卒業までの授業時数5,645時間は、子どもたちの発達を踏まえて授業構成がなされていることが分かります。



2017年2月 絵付け体験



講座の冒頭に行われる実践発表



本屋さんで小1の教科書を購入  
1年生で習う内容知ること  
保育を考えるヒントに!?

## お問い合わせ先

株式会社カグヤ

東京都新宿区西新宿 3-2-11

新宿三井ビルディング 2号館 10階

tel:03-5909-7155

---

## 昨年の臥竜塾年間講座を通して思うこと

---

今だから言うと、実は第1回目の臥竜塾年間講座から参加したい気持ちがありました。ですが、保育士ではないし定員の20名を超え、締め切ったと聞き、参加を諦めていました。

ですが、去年はやっぱり参加したくて、定員を超えてから無理を承知でお願いしてみると、熱意が伝わったのか参加の許可をもらえました。

全10回のうちの出張などの関係で6回の参加でしたが、参加するたびに「保育っておもしろい!」と感じるのでした。

「お茶の時間に落雁を子どもたちと一緒に作りました」  
「スモークチーズをつまみにお父さんたちと打ち上げをしました」  
「黒板は子どもたちの感動エピソードを書き込んでいます」など、どの先生も目を輝かせながら先生自身が楽しんでいました。

私はと言うと、講座で学んだことを社内に持ち帰ったり、他園の先生方へご紹介させて頂いたり、「保育士でなくても、自分には自分にしかできないことがある!」と変な自信をつけながら毎月、通わせてもらいました。

保育所保育指針が改定され、これまで以上に教育のことが謳われます。先生が言ったことを覚える、それだけが教育ではないことを思うと、共に学ぶ仲間がいることは本当に有難いことです。

この1枚のレポートが「教育とは何か」を考える一つのきっかけになったとしたら、臥竜塾という学び舎で学んだことが活かされると思うのです。

今年も新たな学びがはじまることに、今からワクワクしています。

(報告者:株式会社カグヤ 奥山卓矢)